

Title	チャン・クアン・ミン「ベトナム・北朝鮮関係：65年間の回顧と展望」
Sub Title	Quan hệ Việt Nam-Triều Tiên : 65 năm nhìn lại và triển vọng
Author	磯崎 敦仁(Isozaki, Atsuhito)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2023
Jtitle	教養論叢 (Kyoyo-ronso). No.144 (2023. 2) ,p.145- 154
JaLC DOI	
Abstract	本稿では、ベトナム・北朝鮮の外交関係樹立65周年（1950～2015）に際して、政治、外交、経済、貿易、文化、教育分野の65年間にわたる両国関係の特徴を総括するとともに、今後の両国関係発展に影響する肯定的要素について分析と評価を行う。
Notes	鵜崎明彦先生退職記念特集号 翻訳
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062752-00000144-0145">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062752-00000144-0145</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 翻 訳

チャン・クアン・ミン「ベトナム・北朝鮮関係：  
65年間の回顧と展望」\*

儀 崎 敦 仁／訳

**概要：**本稿では、ベトナム・北朝鮮の外交関係樹立 65 周年（1950～2015）に際して、政治、外交、経済、貿易、文化、教育分野の 65 年間にわたる両国関係の特徴を総括するとともに、今後の両国関係発展に影響する肯定的要素について分析と評価を行う。

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）は、ベトナム民主共和国を承認して外交関係を樹立した最初の三カ国のうちの一カ国である（ソ連と中国の後）。国交は、1950年1月31日に樹立された。今年（訳者注：2015年）は、両国が正式に外交関係を樹立してから65周年となる。65年の間、ベトナムと北朝鮮との関係は、地域と世界の政治、経済状況を含む国の状況に伴って浮き沈みのある複数の段階を経験した。両国関係は、正式な外交関係樹立から今日まで主に三つの段階に分けて述べることができる。それは、①外交関係樹立から冷戦終結までの第一段階（1950～1990）、②冷戦終結から2007年までの第二段階、③2007年から今日までの第三段階である。

---

\* 『北東アジア研究』第10巻第10号（176）、2015年、3-12頁（Trần Quang Minh, “Quan Hệ Việt Nam-Triều Tiên: 65 Năm Nhìn Lại Và Triển Vọng,” *Nghiên Cứu Đông Bắc Á*, Số 10 (176), 10-2015, pp. 3-12.)。

## 1. 1950～1990年の段階

ベトナムと北朝鮮が正式な外交関係を樹立（1950年）してから冷戦終結（1990年）までにかけて、両国関係は、社会主義システムをともにする兄弟的關係であり、両国の偉大な領袖であるホーチミン主席と金日成主席によって基礎が構築された。この段階における両国関係は非常に親密であり、両国最高領導者の相互訪問、マルクス・レーニン主義のイデオロギー共有、ソ連をトップとする社会主義陣營をともにする兄弟的な無私の相互支援があった。

政治外交については、正式な外交関係の樹立後、国家元首の相互訪問で特徴づけられる。1957年7月8日から12日、ホーチミン主席が北朝鮮を公式親善訪問した。その後、1958年11月27日から12月3日、金日成首相がベトナムを公式訪問した。これらは大変意義深い相互訪問であり、友好関係と両国間の親密な兄弟的感情の基礎を構築した。それは、冷戦期の間ずっと維持された。この時期、ベトナムの首脳陣として、1961年6月にはファム・ヴァン・ドン首相が訪朝し、1988年9月には北朝鮮の国慶節に際してヴォー・チ・コン国会評議会議長が訪朝し、金日成主席に金星勲章が授与された。ベトナム人民が抗米救国戦争を戦うなか、北朝鮮の政府と人民は、ベトナムに対して精神的、物質的、人的な側面で貴重な支援を全力でしてくれたためである。

各分野での協力については、この期間、両国は次のような重要な協定を締結している。文化協力協定（1957年11月）、科学技術協力協定（1958年10月）、ベトナム民主共和国と北朝鮮の間の友好及び協力協約（1961年）、貿易及び航海協定（1962年12月）、医療相互協定（1966年12月）、外交及び公務旅券に対する査証免除協定（1969年9月）、民用航空輸送協力協定（1977年1月）である。しかし、ベトナムの抗米救国戦争が厳しい状況にあるなか、これらの協定は十分に実現展開する機会に乏しかった。1989年にようやく両国は経済・科学技術面での協力に関する政府の共同委員会を立ち上げた。しかし、これらの委員会が毎年持たれたのは最初の3年間だけであり、その後10年近くは中断した。それは、ベトナムが韓国と外交関係を樹立した（1992年12月）ことが北朝鮮には容認できなかったからである。

文化、社会については、1960年代に北朝鮮が数百人のベトナム人学生・生徒の留学を受け入れた。彼らの多くは、北朝鮮の有名大学の一つである金日成総合大学で学ぶことができた。そのほか、両国の伝統芸術団体は、相互交流公演を頻繁に開催した。例えばベトナム文化部は、毎年4月に平壤で開催される春の芸術祝典に芸術団体を派遣した。

## 2. 1990～2007年の段階

ベトナムと北朝鮮の關係に相当な影響を及ぼした大きな変化が生じた時期である。ソ連と東欧の社会主義体制崩壊による冷戦終結の後、ベトナムも北朝鮮も（旧）ソ連・東欧諸国から支援を受けられなくなり、重大な危機に直面した。両国とも自らの発展路線によって自力で困難を克服しなければならなかった。ベトナムは、ドイモイ政策を推進して社会主義市場経済を發展させ、世界各国との關係を拡大した。同政策は、1986年のベトナム共産党第6回全国代表大会から始まり、ベトナム經濟の危機を乗り越えて一步一步安定させ、ベトナムの國際關係は日増しに拡大した。ベトナムは、韓国を含む世界各国と数多くの正式な外交關係を樹立したのである。一方、北朝鮮は「先軍」政治路線を堅持し、軍事と核兵器開發を優先させた。北朝鮮經濟は、（旧）ソ連と東欧社会主義諸国からの援助がなくなり、非常に多くの困難を抱えていたが、米国の働きかけによって国連が制裁を課してからは、特にエネルギーと食糧面で重大な危機状態に陥った。

このとき北朝鮮は、國際社会からほぼ孤立した状態であった。ベトナムは韓国と正式な外交關係を樹立した後であり、越朝關係も前段階のように緊密なものでなくなっていた。兩國關係が希薄になり冷却化した状況は、その後何年も続いた。關係改善は、1996年4月に北朝鮮の李成大・對外經濟委員會委員長が訪越してからである。その1年後、1997年5月にはベトナムのグエン・マイン・カム外交部長が訪朝している。この訪問の際に兩國は外務省間の協力に関する合意書に署名した。その後、兩國は国家元首クラスもしくは部長級の相互訪問を毎年行ったが、この段階における兩國關係は、地域と世界が大きく変

化していることを背景とした、通商パートナーの関係に過ぎなかったといえる。

経済協力については、1992年の第3回会合から中断していた越朝政府間の経済・科学技術協力委員会が2000年9月に再開された。第4回会合は2001年10月15日から18日まで平壤で、第5回会合は2003年11月19日から20日までハノイで、第6回会合は2006年8月27日から9月2日まで平壤で開催された。そのほか両国は、海運協定（2002年5月3日）、貿易協定（2002年5月3日）、司法相互協定（2002年5月3日）、投資奨励及び保護に関する協定（2002年5月3日）、二重課税防止協定（2002年5月3日）といった協力文書に署名している。両国間の貿易及び投資関係はこの段階で展開されはじめたが、きわめて限定的な水準にとどまった。

貿易については、1990年代初めの総貿易額は年約1,000万米ドル程度にすぎなかった。例えば1993年のベトナムの対朝輸出は3万5,475ドル、対朝輸入は450万ドル、1994年は輸出3万2,000ドル、輸入1,389.6万ドル、1995年は輸出218.6万ドル、1996年にはベトナムから北朝鮮に1,000万ドル以上相当のコメ2万トンが輸出された。1997年からベトナムと北朝鮮は、価格など複数の問題をめぐって不一致があり、ほとんど貿易が行われなくなった。

投資については、1993年半ばに両国がベトナムのハイズオンに約350万ドルの投資でシルク工場の第1段階を落成させた。ベトナムが原料を、北朝鮮が日本から輸入した機械を提供したものである。しかし1994年、ベトナム側は共同運営から撤退し、北朝鮮側の独立経営となった。2001年になると北朝鮮はこの工場をベトナム側に売却している。

援助については、21世紀初めに北朝鮮で厳しい食糧不足の状況があり、ベトナムは北朝鮮に対して何度もコメ支援を行った。例えば2000年には1,000トン、2001年と2002年にはそれぞれ5,000トン、2005年には1,000トンのコメと5トンの原料ゴムの支援を実施したほか、2007年には5万ドルと2,000トンのコメを緊急支援した。

### 3. 2007年～現在の段階

ベトナムと北朝鮮の関係で新たな発展があった段階である。この段階は、2007年10月16日から18日、ノン・ドゥク・マイン・ベトナム共産党総書記による大変意義深い訪朝によって特徴づけられる。この訪問は、第6回6者会合で積極的な結果、重要な進展が得られて、朝鮮半島における平和が進展する背景の中で行われた。また、その前には第2回南北首脳会談が開催され、満足すべき結果が得られていた。この時のノン・ドゥク・マイン総書記訪朝は、経済・貿易関係を含む両国の伝統的な友好関係に大きく貢献した。国際社会におけるベトナムの役割や位相を高めたのである。ベトナムは、国際問題への積極的な関与、解決に参加することになり、朝鮮半島における平和進展を促進することにも貢献した。両国の良好な伝統的友好協力関係をもって、ベトナムは、南北朝鮮双方の関係改善と朝鮮半島における平和進展への積極的な貢献を望んだ。両国世論の評価によれば、2007年10月平壤におけるノン・ドゥク・マイン総書記と金正日総書記の歴史的な会談は、新たな高みに上がった両国の伝統的友好関係をもたらす大きな転換期となるイベントであった。

双方は、ホーチミン主席と金日成主席の努力によって築かれた越朝の伝統的友好協力関係の強固な基礎を確認した。また、新たな高みに上がった両党、両国、両人民の関係のたゆまぬ強化と発展が必要であることについて一致した。多様な形式によるハイレベルの会合や接触の強化、交流の拡大、党と国家の路線による様々なレベルの団体や大衆団体の交換の現実的な拡大、相互理解と双方が関心を持つ分野における経験の共有の強化、両国の強みと潜在能力発揮の基礎の上での経済、文化、科学技術、教育訓練における効果的、実利的な協力拡大の努力、である。

双方は、共に関心を持つ国際問題についても意見を交換し、近い立場を共有した。ベトナムは、朝鮮人民の平和統一の願いを常に支持することを確認した。2000年と2007年の南北首脳合意の精神に従い、独立自主と民族自決に基づく南北朝鮮の平和統一への努力を歓迎した。ベトナムは、6者会合で進展が得られたことを歓迎した。朝鮮半島と地域における平和安定と協力の促進に積

極的に寄与する意思があり、ASEAN 及び ASEAN 加盟国と北朝鮮の協力拡大を支援するとした。

双方はまた、ホーチミン主席と金日成主席が個人的に築いた越朝の友好連帯は、両国人民の感情に深く根ざした長年の伝統的関係であるとのことで一致した。越朝の友好協力関係発展を絶えず強化する意思を確認した。この精神で双方は、越朝の経済・科学技術についての政府共同委員会の活動を推進すること、優先分野と今後数年間にわたって実施する両国間の重点協力プロジェクトを策定することに同意した。

続いて2008年5月、両国外務省は、多面的な協力関係を促進するための方策について定期的に意見交換するため、副部長級の年次政治参考メカニズムを設立することに合意した。この副部長級の年次会議は、2008年に平壤で、2009年にハノイで開催され、その後は両国で毎年交互に開催された。またこの間、ベトナムと北朝鮮は、とりわけ標準化、測定、品質管理の分野で多くの協力活動を展開し、2003年11月20日にはベトナム品質・測定・標準総局(STAMEQ)と朝鮮国家品質管理局(訳者注:2011年4月に国家品質監督委員会に昇格)の間でそれらの協力活動について署名された。その後、両組織は法的規範文書交換に関する協力プログラムの実現と経験交換シンポジウムの開催をめぐる4つの計画について署名した。

経済協力に関する協定の実施を継続するため、2010年に北朝鮮は李明三貿易部副部長を訪問団長とする幹部代表団を派遣し、農業、水産養殖、遺伝子研究、幹細胞、組織培養、エネルギー、水力発電所及び送電線の設置、絶縁材料の生産、セメント、鉱業、金鉱石の選別、バイメタル、シルク、3Dアニメ映画の分野においてベトナムとの協力を望んだ。

続いて2012年には、ベトナムの経済発展の経験を見聞するため、北朝鮮のナンバー2である金永南最高人民会議常任委員長率いる北朝鮮の高位級代表団がベトナムを訪問した。グエン・フー・チョン総書記やチュオン・タン・サン国家主席、グエン・タン・ズン首相のようなベトナムの党と政府の最高指導者は、いずれも金永南を温かく迎え入れて会談を行うために時間を割いた。

会談において双方は、両国人民の願いと利益に適合し、時代の趨勢とともに

両国の環境要件と現実的な能力に符合し、地域の平和と安定、協力と発展に貢献する、両国の伝統的友好関係を絶えず強化発展することを重視し、それを望むことで一致した。双方は、両国首脳の間での訪問と接触、各界各層、各地方の代表団交換を維持継続することでも一致した。また、実情に符合し、双方の強みを有効活用する相互利益の原則で、実質的な方向性に即した経済協力をより強化することで一致した。当面の間、経済・科学技術協力に関する越朝政府の共同委員会は、システム、政策の障壁を除去する方法や経済協力に関する情報交換強化についての意見交換に集中すべきであるとした。

双方は、農業、文化、芸術、スポーツ、教育訓練、人的交流の分野における協力を強化することで一致した。この訪問における北朝鮮の第一の関心事は、ベトナムの農業生産と新しいモデル農場であった。北朝鮮は、ベトナムが食料生産と農業の分野で達成した成果を高く評価し、この分野での経験の共有をベトナムに希望した。双方は、農業管理政策および生産における技術問題についても多くの意見交換を行った。北朝鮮代表団は、地域の新しい農村プログラムについて視察するためタイビン省も訪問した。

この機会にベトナムは、北朝鮮の食料難に対応して5,000トンのコメを援助した。ベトナムはまた、北朝鮮がASEAN地域フォーラム（ARF）のメンバーになることを支援すると宣言し、経済発展における経験を北朝鮮と積極的に共有した。金永南委員長の訪越後、北朝鮮から多くの訪問団が毎年ベトナムを訪れてその経験について意見交換した。

このように、第3段階（2007年から現在まで）におけるベトナムと北朝鮮の両国関係は、非常に有望な成果を達成し、その後の両国関係におけるさらなる発展の基礎を築いたとすることができる。

#### 4. 展 望

今後の越朝関係の展望については、両国関係の現状、両国の内外情勢、現在の地域及び国際環境にもとづき、両国関係が近い将来さらに速く強固に発展すると楽観的な判断が可能である。両国関係のさらなる発展の促進に貢献するで

あろう肯定的な要因は非常に多い。ここでは、政治・安全保障および経済という2つの主要な分野についてのみ言及する。

### (1) 政治・安全保障

地域の政治・安全保障の状況は、きわめて複雑に変化している。越朝両国は、新たな環境において協力関係のさらなる強化に非常に大きな必要性和利益を共有している。

歴史的に見て、東アジアは世界地図において常に重要な戦略的地域であった。この地域は、「回廊」、「橋梁」であり、東洋と西洋を結び、海と陸の交通の戦略的交差点であった。19世紀後半から20世紀初めまでだけを見ると、東アジアはほとんど欧米植民地勢力の侵略と併合の対象であったが、20世紀後半、特に冷戦終結から現在にかけてこの地域は地政学的に重要な地域となり、国際的な場で日増しに注目される位置づけとなり、世界の発展に大きく貢献した。21世紀初め、東アジアは、ほとんどの大国、特に米国と中国の発展戦略にとってますます重要な戦略的地位のある地域として浮上した。21世紀初めから現在まで世界情勢の複雑な背景は、東アジアの地政学的な局面の変化に大きな影響を及ぼし、この地域の国々は自らの対外政策と国際関係における多大な変化を余儀なくされている。大国は優位性と影響力の獲得競争において力の行動様式を持っているが、小国もまた自らの行動様式を持たなくてはならない。そのような背景において、ベトナムや北朝鮮のような小国も他国と同様に、大国による干渉と侵略に対処する力の増強を目指す強固なブロックを形成するため協力と連携を強化することが必要である。

ベトナムと北朝鮮は、双方とも関心のある国際問題において相互支援することに利益がある。北朝鮮は、朝鮮半島の平和的統一問題においてベトナムが北朝鮮を支援してくれることを望んでいる。また、ベトナムが北朝鮮とASEAN地域フォーラムとの橋渡し役になり、現在の孤立状況から抜け出すのを助けてくれることを希望している。ベトナムは、国際問題、とりわけ南シナ海の主権問題で北朝鮮の支援をこれまで以上に必要としている。これらはまさに、越朝の政治外交関係が今後さらに発展する促進要因である。

## (2) 経 済

ベトナムと北朝鮮の経済協力関係は、それまでの目覚ましい成果を基盤としており、今後は地域環境と両国の状況の影響下でさらに強化促進されることになろう。

東アジアは、地理的位置、経済発展の規模とスピードで特殊性があり、現在世界で最もダイナミックな地域となっている。この地域における二国間および多国間の経済協力フォーラムは、これまでになく活発に開催されている。ベトナムは、これらのフォーラムの非常に積極的なメンバーである。市場志向のドイモイ経済路線と、地域と世界における経済の積極的な統合により、ベトナムは地域諸国との経済協力関係で大きな成果を獲得してきた。国際経済統合の過程で得られた経験と、北朝鮮との経済関係で獲得した成果に基づいて、ベトナムは今後北朝鮮との多面的な経済協力プロセスを強化促進する有利な点と条件を持っている。

北朝鮮は、核問題に関連して世界から孤立したままであるが、国内経済の改革を進めてきており、地域諸国との経済協力を推進することにおいて非常に合理的な需要がある。北朝鮮は、外国からの投資誘致と観光サービス業の発展を狙って、自由経済地帯（FEZ）と観光地区を設置した。北朝鮮が各国との経済協力を推進する可能性は依然として十分にあるのである。近年の北朝鮮の経済的進展は、国内経済の改革を促進し、門戸を開放し、地域と世界の経済が統合する趨勢が不可避であることを示している。北朝鮮で現在起きていることは、ベトナムが1980年代終わりに経済の刷新（ドイモイ）を始めた際にベトナムで起こったことと似ていると言える。ベトナムの経験は北朝鮮にとって有益な参考となるはずであり、北朝鮮自身もベトナムの経験を研究して参考にしたいと真に希望している。そのことはまさに、北朝鮮が今後ベトナムとの経済協力を強化促進するのに資する明白な要因である。

再び整理するならば、ベトナムと北朝鮮の関係は、世界と地域の情勢、両国の内外要因の変化に伴って浮き沈みの段階を経験した。両国の協力友好関係は、ホーチミン主席と金日成主席ら両国の最高指導者によって基礎が構築され積み上げられてきた。ベトナムの抗米戦争の時期に、北朝鮮はベトナムを誠心誠意支援、援助してくれた。北朝鮮経済が深刻な状態に直面する中、ベトナムも非常に迅速かつ効果的な支援を行った。現在、非常に複雑な変化の中にある新たな東アジア地域情勢において、両国指導者は、両国の伝統的な友好関係をより実質的に発展させ、政治・安全保障問題で積極的に相互支援し、経済、貿易、投資の各分野で協力を強化し、人的交流の形式を強化し、発展の経験を相互に共有することで合意している。両国の外交関係樹立 65 周年にあたる 2015 年は、良好な展望を持って両国関係の新たな段階を開始する年であるとも言えるのである。

### 訳者注

訳者（磯崎）は、北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）を研究対象としており、同国とベトナム（ベトナム社会主義共和国）の関係にも強い関心を抱いてきた。両国は、漢字文化圏、箸文化圏の中にあるほか、政治外交的にも共産党（労働党）による一党支配、中国との微妙な距離感など共通点が多い。しかしながら、現代の越朝関係について日本語文献はもちろんのこと朝鮮語、英語でも情報が限定的であると言わざるを得ない。

そのようななか、本稿は越朝関係の展開を知るための基礎的な文献として重要であり、ベトナム社会科学院北東アジア研究センター所長を務めた著者のご快諾を得て訳することにした。ただし、字数の関係もあり、注釈と参考文献は省いている。

齟齬が生じないように、できるだけ原文に忠実に精訳することにしたため、直訳調で読みづらい部分もあろう。「CHDCND」「Triều Tiên」は、原則として「朝鮮」ではなく「北朝鮮」とした。また、金永南最高人民会議常任委員会「委員長」は、原文では「主席（Chủ tịch）」となっているが、朝鮮語の「委員長」に直している。そのほか、協定の名称など一部の固有名詞については、ラヂオプレス『北朝鮮政策動向』の表記を参考にした。